

生産物量と生産コスト及び法改正に対応するアウトソーシング活用のご提案

業務請負導入のご案内



コーエイ・デライト株式会社

貴社生産業務にアウトソーシング（業務請負）の導入をご提案いたします。
アウトソーシングの導入により以下のような機能、メリットが期待できます。

- アウトソーシング【なぜ、アウトソーシングするのか】 1
- アウトソーシングの機能【製造現場におけるアウトソーシング】 2
- アウトソーシングの効果【アウトソーシングの活用】 3
- アウトソーシングに求められるもの【弊社のコミットメント】 4
- アウトソーシングの費用対効果【請負業務の支払い金額】 5
- アウトソーシングのコンプライアンス【適正な請負事業の運営に当たって】 . . . 6
- 業務請負の工程管理【求められる品質を追求して】 7-9
- 業務管理手法、日常管理【SDCAサイクル】 10

【なぜ、アウトソーシングするのか】

①リスクの回避

生産要員や設備稼働率には余剰リスクがあります。これらを避け、コストの変動費化を実現します。

②ダウンサイジング

資産規模を必要最低限にし、経営効率を高めます。

③コストの削減

生産量、仕事量に合わせた出費で済みます。

④コア・コンピタンス

専門性の低い業務を捨て、中枢業務に特化します。

⑤スピード

ある機能を早急に拡充したいという場合、外部資源を有効に活用します。

アウトソーシングの機能

【製造現場におけるアウトソーシング】

「固定費の変動費化」

- ① 繁閑期の生産量に応じて、人員の調整が外部で可能。さらに外注費として変動費化できます。
- ② 「コストの外部化」 景気変動に柔軟に対応。外部化する事でリスクの分散化を図れます。
- ③ 生産現場の固定する社員賃金を省力化。「固定費の削減」賃金固定分を軽減できます。
- ④ 生産量に応じた出来高支払いのため、割増賃金の発生がありません。

「生産の効率化」

- ① 過剰あるいは、余剰人員を持たず人手不足に対応いたします。
- ② 生産の出来高量に応じた支払いのみで可能です。
- ③ 単位時間/生産量の増大を図り、業務のスピードアップを実現いたします。

「管理コストの削減」

- ① 「雇用管理の軽減」 人事・労務にかかるコストを軽減いたします。
- ② 「採用コスト・労力の軽減」 広告掲載料、面接採用業務の軽減をいたします。
- ③ 「福利関連の外部化」 採用研修、育成業務を弊社で実施。福利費用・業務を外部化いたします。
- ④ 「社会保険料」及び「福利厚生費」を軽減いたします。

「事業の選択と集中」

- ① 「コア業務の強化」 企業本来の収益性、将来性のある基幹業務（コア）に経営資源を集中投下し、同一マーケットにおける競争力の強化に貢献いたします。
- ② 「ルーチンワークの外部化」 生産性の上まらない部門や、定型業務、人の定着しない3K職場を外部化できます。

アウトソーシングの効果

【アウトソーシングの活用】

- ①完全自前主義（フル内製化）による労働賃金の「硬直化」「固定化」を回避（リスクを避ける）
- ②生産増、工場操業時間増に「余分な人件費」を持たないで対応（人的資源の効率化）
- ③製造原価項目の「労務費を外部化」して「変動費化」し、経営を改善（経営の柔軟性）
- ④コア業務に経営資源を集中し「経営を強化」する（競争力のアップ）
- ⑤工場内の装置・機械当たり「単位面積当たりの生産稼働率」を上げる（1.5直体制の導入等）
- ⑥外部の専門サービスを取り込み「外部資源を活用」（専門機能を強化）

【ビジネスパートナーとして取り組む効率化、コスト低減】

「契約単価」×「出来高物量」で計算するため、生産量、作業量に係わらず

@単価/k g ×物量のみのお支払い

※生産増に対しての、時間外いわゆる残業代の発生がありません。

【生産管理ご担当者様へ】

計画（予算、週間、月次等）に対して@単価/k g物量が一定の請負であれば、**賃率における原価差異が生じにくくなり、「標準原価」「実際原価」等の計算が容易になるために原価管理が効率的に行えます。**プラント内の**単位面積当たり、または坪面積当たり稼働率**を外部資源（自社従業員を持たずに）によって上げられます。例えば1.5直体制等

アウトソーシングに求められるもの

【弊社のコミットメント】

「品質」「コスト」「生産性」「納期」「業務基準」「安全衛生」

- ①HACCPなどに基づく工程管理を徹底し、求められる品質管理を実行いたします。
- ②「業務請負仕様書」に基づき作業基準、納期、工数、工程を厳守。キチンとした仕事を行います。
- ③現場の「5S」「3定」「5現主義」管理実施により品質事故・異物混入防止等品質管理を徹底いたします。
- ④現場の「7つのムダ」を排除し、ロス管理によるコスト低減、物の滞留防止をいたします。
- ⑤「不良品」「不良在庫」「クレーム」「品質事故」「異物混入」等のゼロ生産活動を取り組みます。
- ⑥設備稼働率UP、労働生産性UPによる生産性の向上、最大化に貢献いたします。
- ⑦生産現場における継続的な報告・連絡・相談を徹底して行い、問題及び品質事故発生を防止いたします。
- ⑧安全手法の活用、安全委員会を機能し労働災害撲滅に努めます。
- ⑨請負業務進捗管理（進捗状況、計画達成）を毎日実施、管理責任者が指導監督。現場にフィードバックいたします。
- ⑩契約業務進行状況、成績を日報にて報告いたします。

●（すべての請負業務）に関しまして、当社の「是正措置」を適用いたします。現場審査などの、指摘事項を検証の上、速やかに軌道修正を図り、正常に回復、現場の運営をいたします。

アウトソーシングの費用対効果

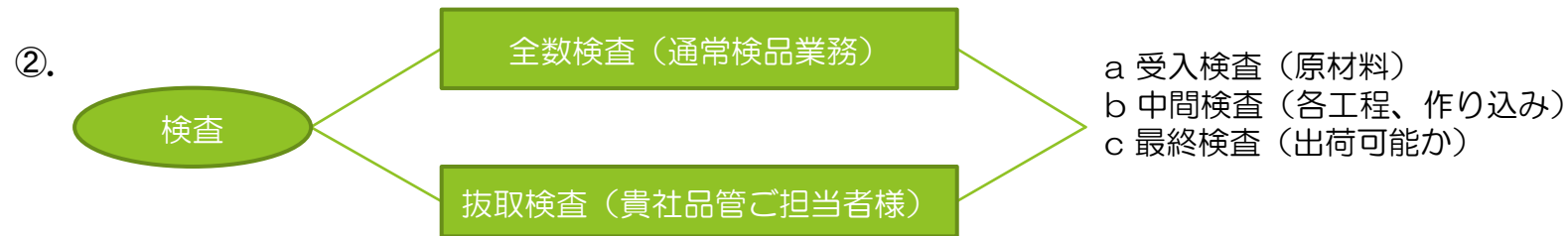
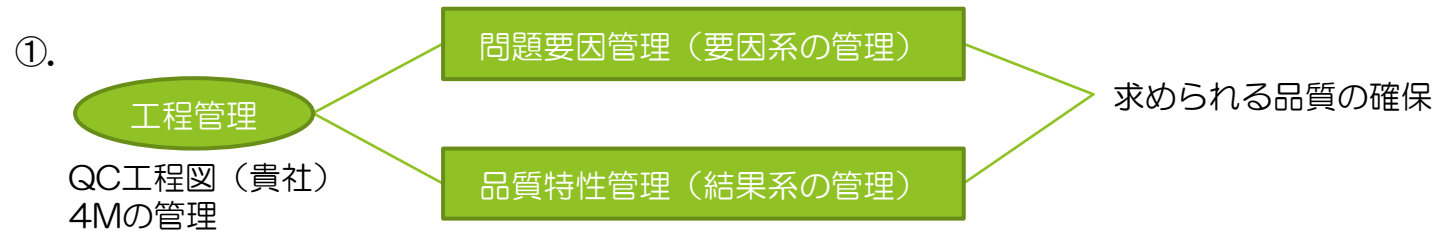
【請負業務の支払い金額】

- ①「契約単価」×「処理物量」のみのお支払い。月間、あるいは1日当等の「生産物量の最低保証」をお願いする事は一切ありません。
- ②繁忙期、どんなに生産量が多くても「時間外割増」又は「早朝出勤割増」はゼロです。
- ③生産稼働が深夜に及んでも「深夜割増」の発生もゼロです。
- ④繁忙期における「契約単価」×「割増請求」の発生はありません。
- ⑤閑散期における弊社スタッフの「労働時間の保証」又は「8Hに満たない時間分の請求」もゼロです。
- ⑥つまり、請求月次における「実際の処理量」×「一定の契約単価」のみのお支払いなのです。
- ⑦今まで払っていた「繁忙時期」の従業員に対する「割増賃金」（残業代）も「閑散期」に保証していた8H/1日の「労働時間の調整又は保証」や「ワークシェアリング」も必要なくなります。
- ⑧繁忙期の人手不足に対応するための「短期アルバイト」や「スポット派遣」を利用する事の生産性ダウンや品質の不安定、管理コスト増（人の教育・指導）を解消いたします。

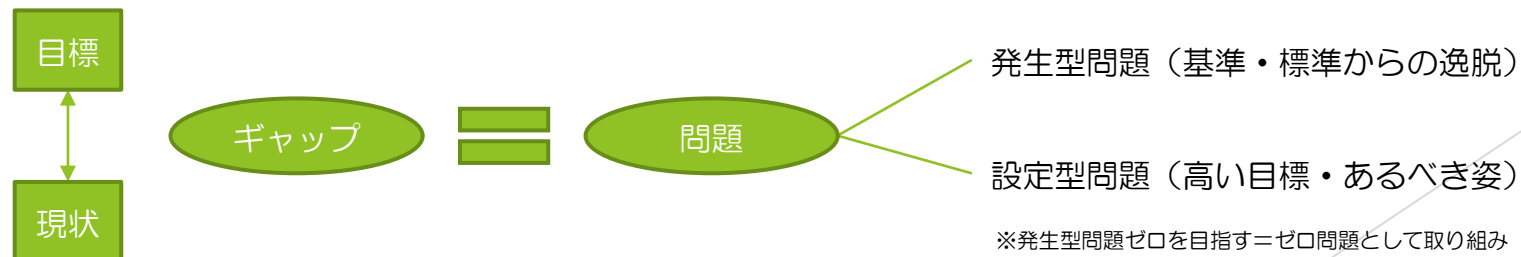
【適正な請負事業の運営に当たって】

- ①労働省告示第37号「労働者派遣事業と請負により行われる事業との区分に関する基準」に基づく「具体的判断基準」76項目のチェックシートにより請負事業が適法であるかの判定をいたします。
- ②労働局指導「請負事業者及び、発注者の請負化適正点検表」を用いて、請負事業として合法であるか、請負事業が適正に行われているかの点検、チェックを行っています。
- ③弊社営業本部を所轄する「埼玉労働局」が行うセミナー、勉強会等に積極的に参加し、最新の情報、法令改正をいち早く習得し、現場運営にフィードバックしています。
- ④労働局担当官と随時コミュニケーションを図り、指導・助言を受けることにより、間違いのない請負事業を運営しています。
- ⑤「労働基準法」「労働安全衛生法」等に基づき、弊社の社会保険労務士により「労務管理」をテーマにした勉強会を定期的実施、職場に反映させる事により労働災害、労働問題の発生しない現場の運営を行います。

【求められる品質を追求して】



③. ソリューション



※発生型問題ゼロを目指す=ゼロ問題として取り組み

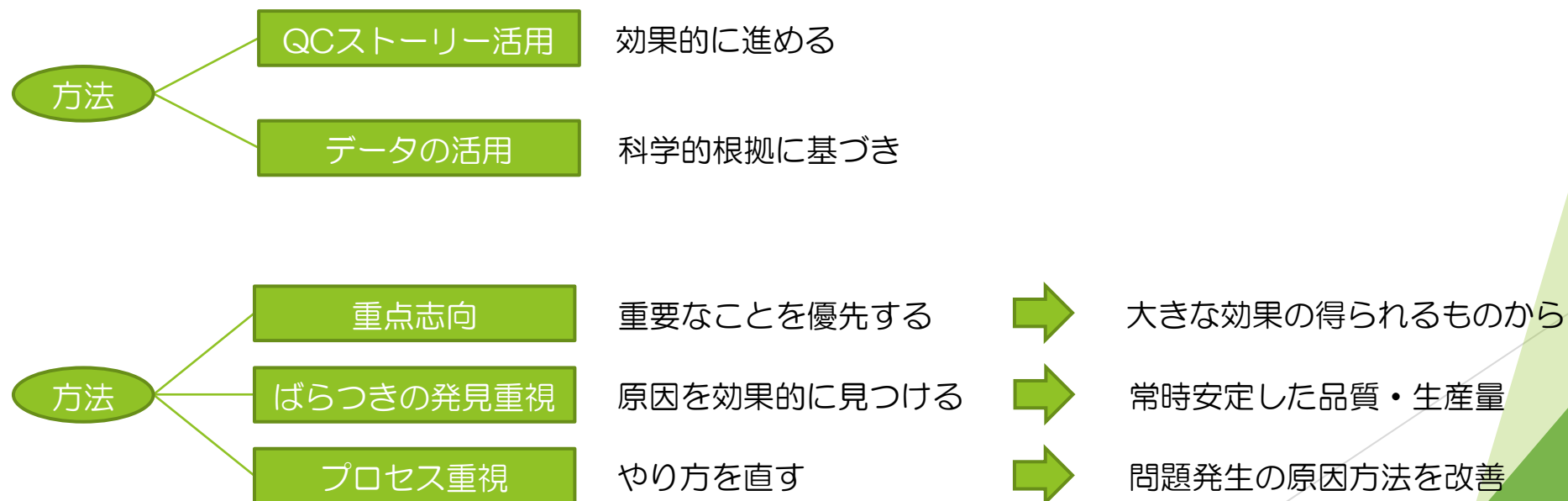
1. MATERIAL (相関管理)
2. MACHINE (相関管理)
3. METHOD (貴社管理) × 作業管理 (当社)
4. MAN (当社管理)

④. 問題解決ステップ

1. **問題の把握** × (CMS) (SH) × 現状認識 = 現場検証
2. **原因の追究** × (CMS) (SH) × 要因分析 = 原因の明確化、聞き取り調査等
3. **解決策の立案** × (CMS) (SH) × 原因除去 = 断固たる処置

⑤. QC的取り組み

「事実に基づく分析」 × 問題解決活動 (ソリューション活動) = 顧客満足 (貴社要求レベルの達成)

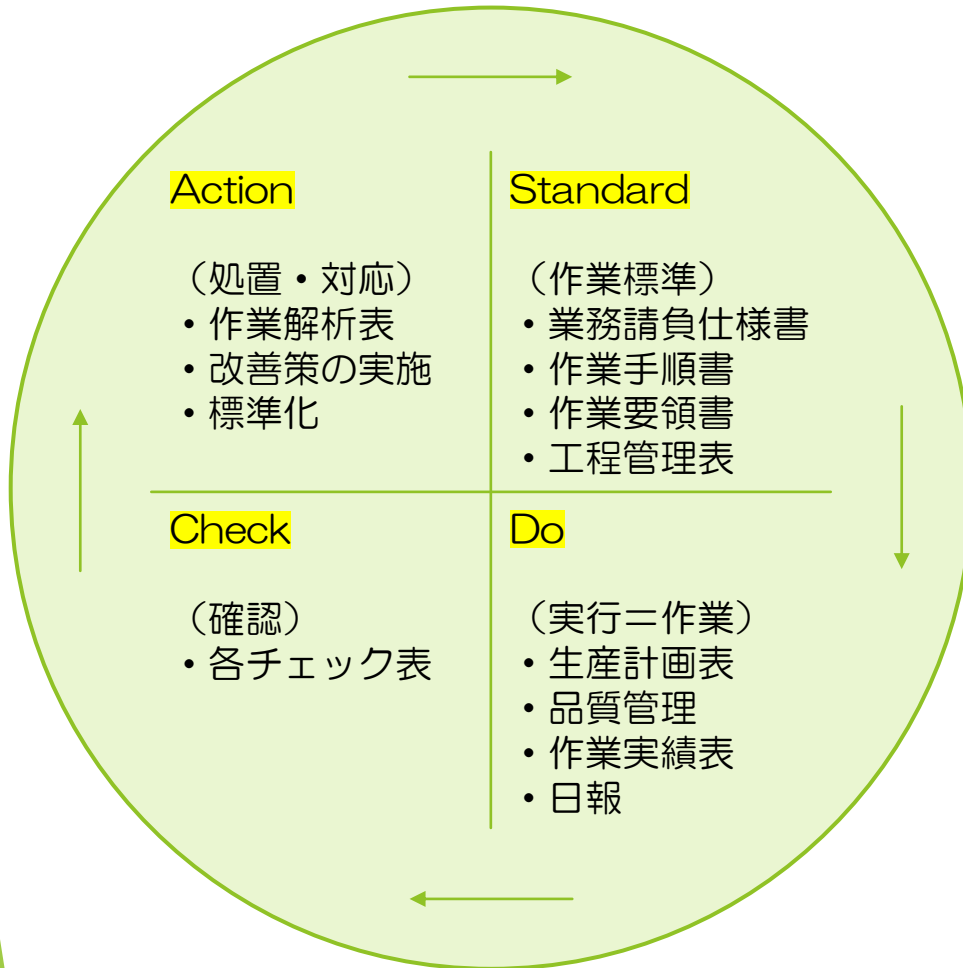


⑥. QC業務ストーリー CSへの取り組み

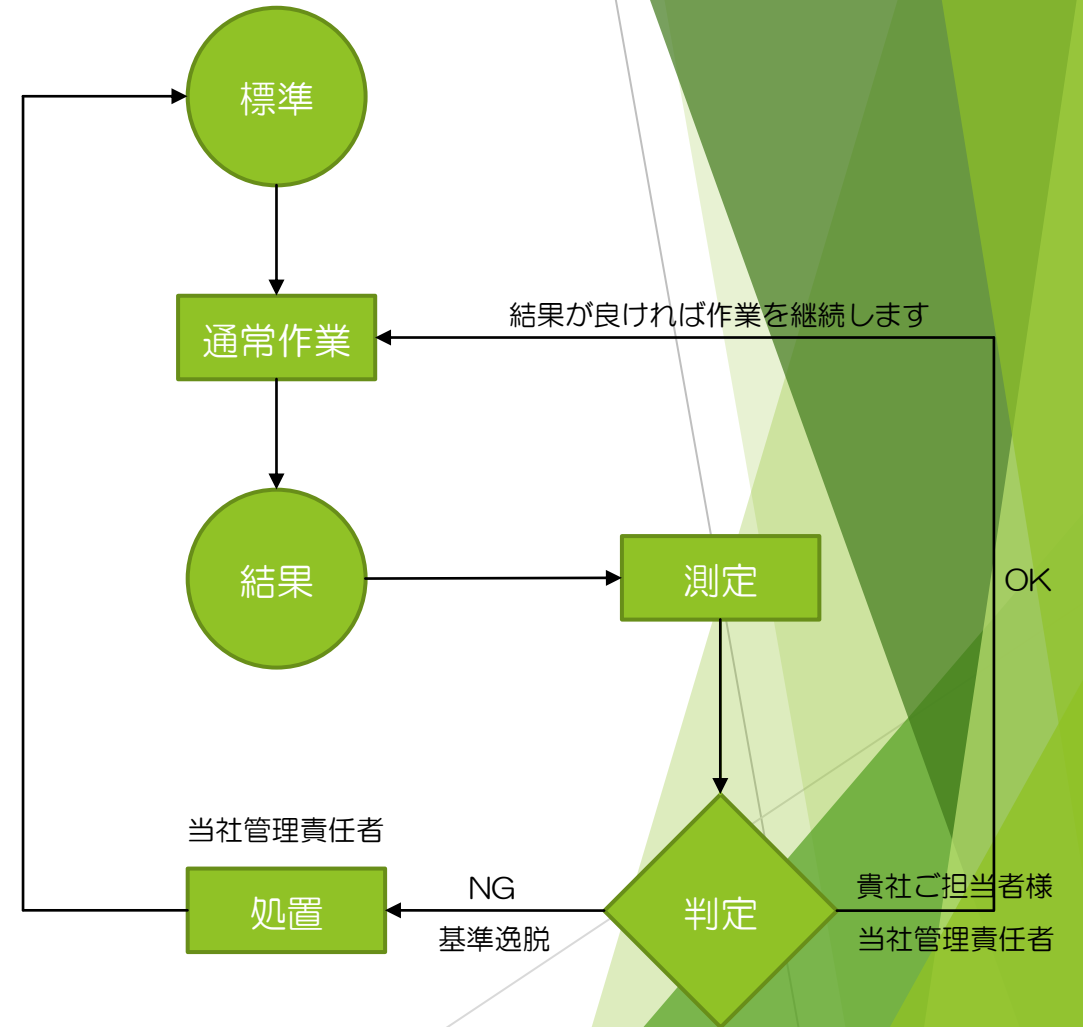
ステップ1	テーマの選定	各工程の完全習得、早期に生産・品質の安定化を図る
ステップ2	現状の把握	現在の状態を個別、ライン別、全体で把握 各々の適性判断、教育・訓練の不足部分を補填
ステップ3	目標設定	現状からの改善目標、達成時期、作業工程、生産実績
ステップ4	要因分析	問題のある人、問題を起こしている原因を分析・追及
ステップ5	対策の立案と実施	原因に対する解決策を直ちに実行
ステップ6	効果の確認	対策効果を確認、生産実績、品質管理シート等
ステップ7	標準化	効果のあった対策案を使用して標準化を徹底する
ステップ8	今後の課題と計画	今後の課題を設定、計画づくり
ステップ9	お客様満足の実現	信用を作り続けること

業務管理手法・日常管理

【SDCAサイクル】



【品質の絶対維持】



結果が悪ければ、作業を速やかに解析要因分析を行い、直ちに軌道修正します。